

しあわせも収穫する 農業体験農園



休日や余暇に、青空の下で自然の風を感じながら心地よい汗を流す…。

一粒の種から命を育む農業体験は、参加者に収穫のよろこびばかりでなく、地域の農林水産業が維持されることの大切さを実感させてくれます。

本書では、「菜園カルチャースクール」ともいわれるこの体験型農園の魅力と、それが日本の農業の新たな未来を開く可能性について、園主、行政マン、新聞記者が報告します。

農業体験農園とは？ 「野菜づくりを学びたい」「健康のために」「子どもを自然に触れさせたい」など様々な目的を持った人々が、年齢・性別関係なく集まり、農を体験できる場です。農業の経験がまったくない人でも気軽に参加できます。一区画は約30㎡、畑を提供する農園主が、日頃鍛えた技術と経験で、おいしい野菜づくりのお手伝いをします。農具・種苗・肥料は農園主が準備します。



定価：本体1000円＋税
ISBN978-4-88345-101-2
C0061
●A5判102ページ／ブックレット

■**広がれ、農業体験農園**
プロの農家の指導付きで畑仕事を学び、作物を収穫する「農業体験農園」。東京で始まり、全国に広がっているこの取り組みは、ボランティア的な交流事業ではなく、農業経営の柱となりうる試みで、農家のすぐ近くに消費者がいるという、日本農業の最大の強みを生かす道でもある。東京・練馬区で農業体験農園「大泉 風のがっこう」を運営する白石好孝さんの講演の報告。



■**ロシアの自家菜園（ターチャ）を訪ねて**
都市住民の大半が集合住宅に住むロシア。夏になると、多くの人が郊外にある住まい付きの自家菜園で農作業にいそしみ、家族が食べられる一年分の食料をこしらえるという。2013年8月、「ふくおか農業体験農園主会」の会員がロシア極東部のハバロフスクを訪ねた。

■**第3部 レッツ農！**
数年後に迫った定年に備え、アゴだけでなく技術も身に付けておかなければと、農業体験農園に通い始めた新聞記者の1年間のドタバタをつづつたルポ。師匠役の2人の個人的な園主の言葉からは、農の奥深さを垣間見ることが出来る。



■**第2部 進め！地産地消**
筆者は、福岡県農業改良普及員として減農薬やアイガモ水稲同時作の普及、直売所を活用した地場産給食の導入に携わってきた。生産者と消費者が互いを思いやる地産地消の延長線上に望ましい未来があると考える筆者が、次世代を担う子どもたちの食を守るためのさまざまな提案を行う。

●目次から

農業の面白さと奥深さを 全国農業体験農園協会理事長 加藤義松

第1部 **目指せ！市民皆農** ちくこファーム代表 成清禎亮

東京で始まった農業体験農園。「これは東京のような都会よりも、むしろ地方にこそ必要な価値ある取り組みでは…」と感じた、当時脱サラ就農3年目の筆者が、九州で初めて開設した「つくし農業体験農園」の6年間の顛末記。

■ふくおか農業体験農園一覧／全国の農業体験農園一覧

注文書	帖合・書店	不知火書房 TEL092(781)6962 FAX092(791)7161	
	冊	しあわせも収穫する農業体験農園 成清禎亮／川口進／佐藤弘[共著] 定価：[本体1000円]＋税 ISBN978-4-88345-101-2 C0061 ¥1000E 農業・地産地消	
	お名前	TEL	
きんぶん図書扱い／地方小扱い	ご注文(〒)		

※ご注文はお近くの書店か、小社まで。